

第 I 部 調査結果の概要

1 平成 20 年の概況

～比較的高い水準で推移していた生産が、世界的な同時不況の影響により、記録的な低下へ～
 (前年を下回ったのは、現行基準で比較可能な平成 15 年以降で初めて)

- 鉱工業生産指数 (季節調整済指数) は、平成 19 年Ⅳ期 (10～12 月期) のピーク (113.9) 後、緩やかな低下傾向ながらも比較的高い水準で推移していたが、世界的な同時不況の影響により記録的な急低下となり、Ⅳ期 (10～12 月期) には、平成 15 年Ⅱ期 (4～6 月期) 以来、5 年 2 期ぶりに 95.0 を下回る低水準 (94.3) となった。
- 特に、Ⅳ期 (10～12 月期) の生産指数の低下は、幅広い業種にわたり、前期比の下落率は、現行基準で比較可能な平成 15 年以降で最大 (▲13.4%低下) となった。

(1) 鉱工業生産指数

鉱工業生産指数は、106.3 (前年比▲3.9%低下)。現行基準で比較可能な平成 15 年以降で初めて前年を下回った (図 1)。

業種別にみると、小型自動車などの生産が伸びた輸送機械工業など 6 業種が上昇したが、一般機械工業や電気・情報通信機械工業など 13 業種が低下した (図 2)。

(2) 鉱工業出荷指数

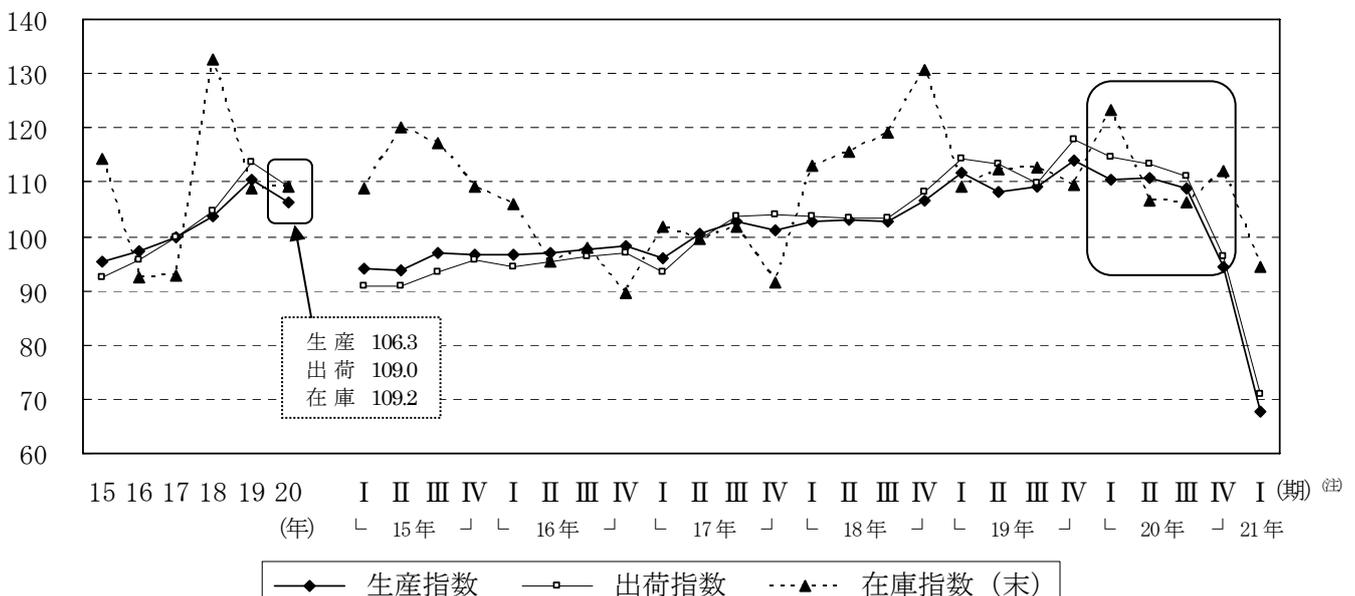
鉱工業出荷指数は、109.0 (前年比▲4.0%低下)。現行基準で比較可能な平成 15 年以降で初めて前年を下回った (図 1)。業種別にみると、輸送機械工業など 6 業種が上昇したが、電気通信機械工業や一般機械工業など 13 業種が低下した。

(3) 鉱工業在庫指数 (末)

鉱工業在庫指数 (期末在庫) は、109.2 (前年比 0.4%上昇)。2 年ぶりに前年を上回った (図 1)。業種別にみると、鉄鋼業など 8 業種が低下し、鉱業が横ばいだったが、化学工業など 9 業種が上昇した。

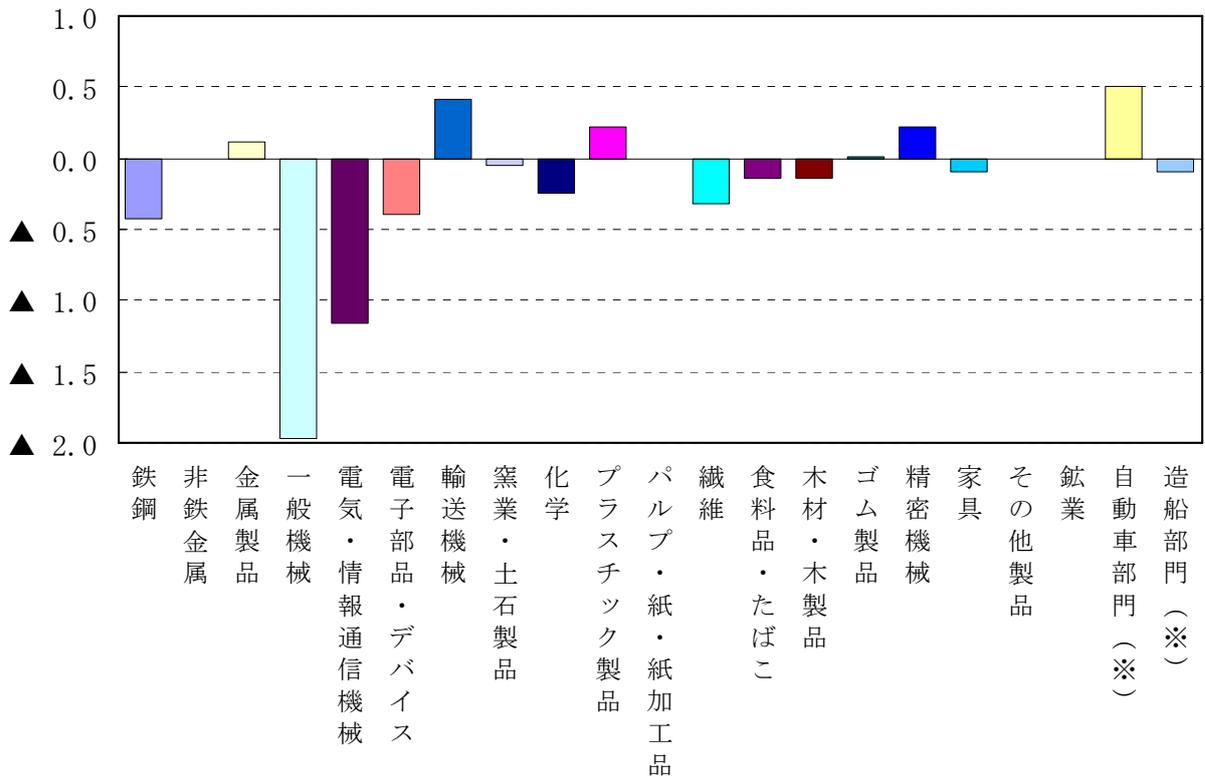
図 1 鉱工業指数の推移 (年は原指数, 四半期は季節調整済指数)

(平成 17 年平均 = 100)



(注) Ⅰ期: 1～3 月, Ⅱ期: 4～6 月, Ⅲ期: 7～9 月, Ⅳ期: 10～12 月

図2 平成20年における鉱工業生産指数の前年比に対する業種別寄与度^(注)



(注) 寄与度とは、鉱工業指数全体の上昇・低下に対し、各業種の上昇・低下が、どの程度影響を与えているかを示したものである。

(※) 自動車部門及び造船部門については、輸送機械を分けたものである。

2 生産の業種別動向（寄与度順）

(1) 前年比が上昇した主な業種

上昇した主な業種	前年比	寄与度	上昇した主な品目
輸送機械工業	2.6%	0.4%	小型自動車, ガリソエンジン, シャシー及び車体部品
精密機械工業	30.0%	0.2%	医療用機械器具, 工業用長さ計
プラスチック製品工業	5.4%	0.2%	パイプ, 容器, 機械器具部品

(2) 前年比が低下した主な業種

低下した主な業種	前年比	寄与度	低下した主な品目
一般機械工業	▲12.5%	▲2.0%	半導体製造装置, ボイラの部品, 印刷機械
電気・情報通信機械工業	▲18.2%	▲1.2%	携帯電話, 低圧遮断器, 電気溶接機
鉄鋼業	▲1.8%	▲0.4%	普通鋼鋼管, 銑鉄, H形鋼

3 関連業種別生産指数の推移

機械関連業種、素材関連業種、生活関連業種、いずれも低下

業種別の生産指数を、機械関連業種、素材関連業種、生活関連業種の3業種に分けて分析すると^(注) (図3)、平成20年は、3業種すべてで前年を下回っている。

関連業種別にみると (図4)、機械関連業種は現行基準で比較可能な平成15年以降、上昇を続けていたが、平成20年は大幅に低下した。

また、現行基準で比較可能な平成15年以降、平成17年を底として2年連続で上昇を続けていた素材関連業種は、平成20年には低下に転じ、生活関連業種は平成17年以降、3年連続で低下している。

図3 鉱工業生産指数の前年比の推移

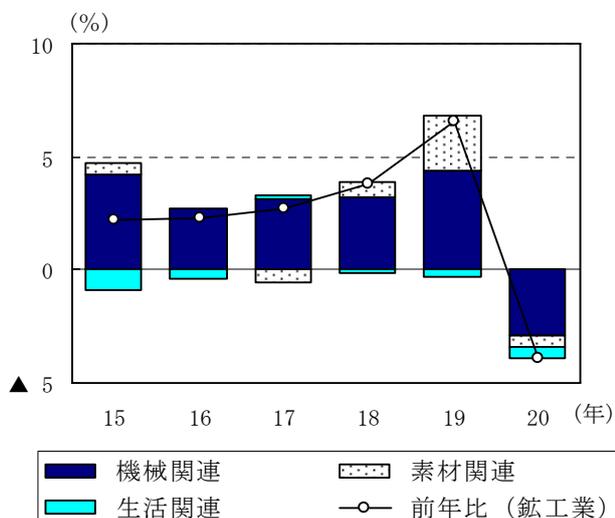
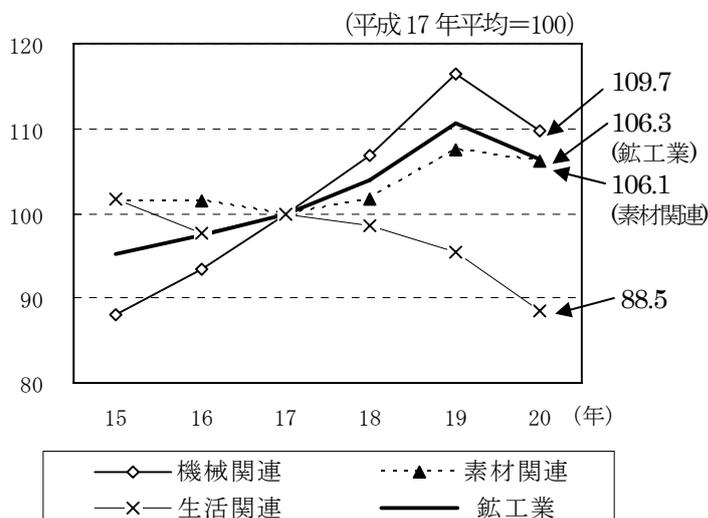


図4 関連業種別生産指数の推移



(注) 各関連業種の分類は、次のとおりとした。

機械関連業種：一般機械工業、電気・情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業、精密機械工業の5業種

素材関連業種：鉄鋼業、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、化学工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、木材・木製品工業、ゴム製品工業の9業種

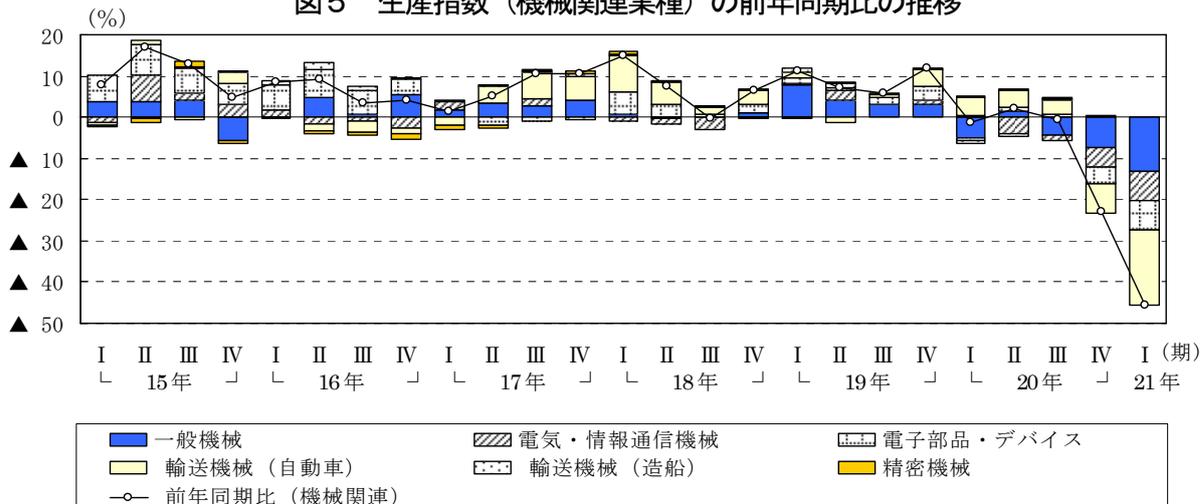
生活関連業種：繊維工業、食料品・たばこ工業、家具工業、その他製品工業の4業種

(1) 機械関連業種の生産指数の推移

機械関連業種の生産指数は、平成20年10～12月期以降、急速に低下

機械関連業種の生産指数は、平成20年7～9月期から低下が始まり、10～12月期には、一般機械工業、電気・情報通信機械工業などが寄与し、急速に低下した。また、1～3月期から7～9月期まではプラスで推移していた輸送機械工業（自動車）も、10～12月期以降、マイナスに転じ急速に低下した (図5)。

図5 生産指数（機械関連業種）の前年同期比の推移



① 一般機械工業

一般機械工業の生産指数は102.1（前年比▲12.5%低下）。機械関連業種のみならず、全業種の中で最も低下に寄与した。研削盤などが上昇したが、半導体製造装置などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成20年1～3月期の落込みから回復した4～6月期は前年同期を上回ったが、7～9月期以降は前年同期を下回り、10～12月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲25.3%低下）。

② 電気・情報通信機械工業

電気・情報通信機械工業は79.8（前年比▲18.2%低下）。自動車用電気照明器具などが上昇したが、携帯電話などが低下に大きく寄与した。四半期ごとにみると、平成20年1～3月期まで5期連続で前年同期を上回っていたが、4～6月期以降は連続して前年同期を下回り、10～12月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲36.3%低下）。

③ 電子部品・デバイス工業

電子部品・デバイス工業は118.5（前年比▲3.8%低下）。モス型半導体集積回路のロジックとマイコンなどが上昇したが、メモリとCCDなどが低下に大きく寄与した。四半期ごとにみると、平成20年1～3月期の落込みから回復した4～6月期、7～9月期は前年同期を上回ったが、10～12月期は現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲20.2%低下）。

④ 輸送機械工業（自動車部門）

輸送機械工業（自動車部門）は127.0（前年比3.8%上昇）。普通自動車などが低下したが、小型自動車、ガソリンエンジンなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成20年7～9月期まで5期連続で前年同期を上回っていたが、その後、10～12月期は、輸出向け生産の低下によりマイナスに転じ、現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲23.1%低下）。

⑤ 輸送機械工業（造船部門）

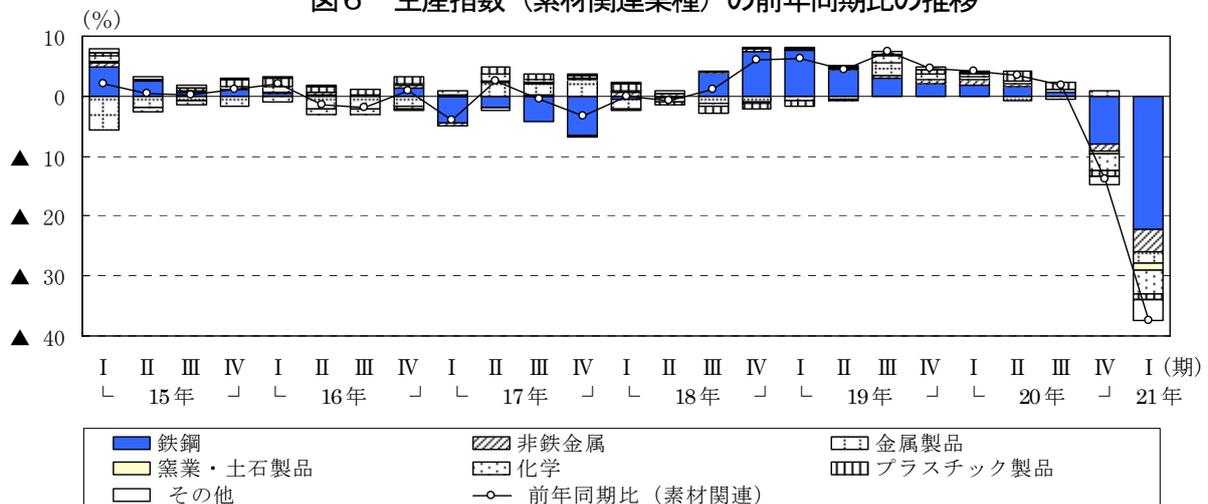
輸送機械工業（造船部門）は111.9（前年比▲3.4%低下）。鋼船修理は上昇し，鋼船新造は低下した。四半期ごとにみると，平成20年1～3月期には6期ぶりに前年同期を下回り，さらに4～6月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲10.9%低下）が，その後回復し，7～9月期以降は緩やかながら前年同期を上回った。

(2) 素材関連業種の生産指数の推移

素材関連業種の生産指数は低下傾向で推移，鉄鋼業が主な要因

素材関連業種の生産指数は，平成20年10～12月期以降，鉄鋼業が大きく寄与し，急速に低下した。四半期ごとにみると，平成20年7～9月期までは前年同期を上回ったが，10～12月期以降にはマイナスに転じ，前年同期を大幅に下回った（図6）。

図6 生産指数（素材関連業種）の前年同期比の推移



① 鉄鋼業

鉄鋼業の生産指数は111.7（前年比▲1.8%低下）。亜鉛メッキ鋼板などが上昇したが，普通鋼鋼管，銑鉄などが低下に大きく寄与した。四半期ごとにみると，平成20年7～9月期まで9期連続で前年同期を上回っていたが，10～12月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲15.0%）。

② 金属製品工業

金属製品工業は96.3（前年比3.0%上昇）。水門，グレーチングなどが低下したが，橋りょうなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると，平成20年4～6月期に前年同期を下回ったが，他の期は前年同期を上回った。

③ 化学工業

化学工業は95.4（前年比▲6.5%低下）。触媒，医薬品などが上昇したが，メタクリル酸エステル・モノマーなどが低下に寄与した。四半期ごとにみると，平成20年4～6月期まで5期連続して前年同期を上回っていたが，7～9月期以降は前年同期を下回り，10～12月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で最大の下落率となった（前年同期比▲32.5%）。

④ プラスチック製品工業

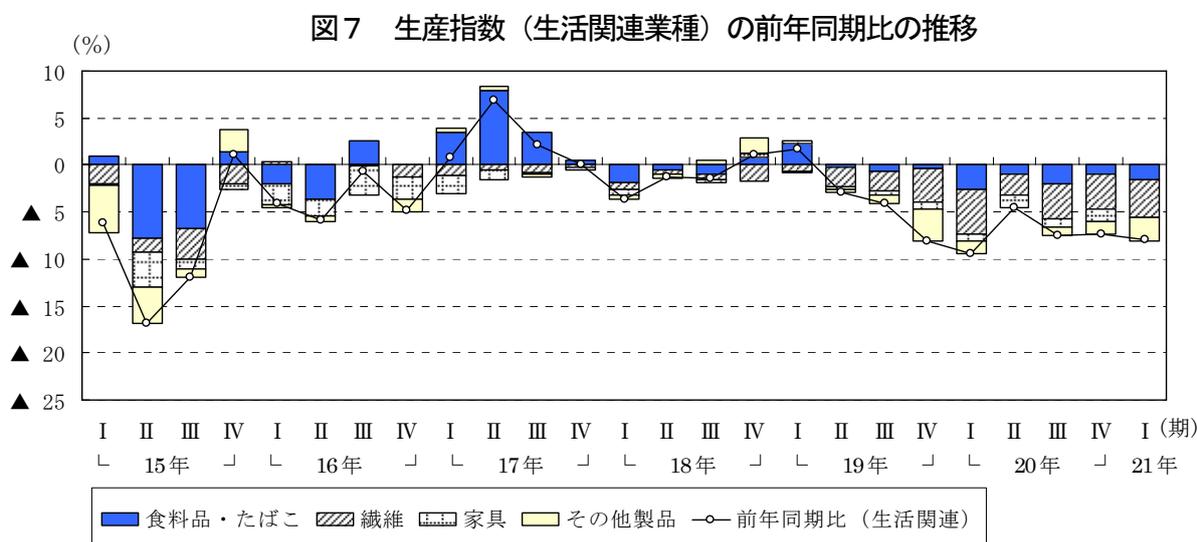
プラスチック製品工業は101.5（前年比5.4%上昇）。光学フィルムなどが低下したが、パイプなどが上昇に寄与した。四半期ごとにみると、平成20年7～9月期まで5期連続で前年同期を上回っていたが、平成20年10～12月期には現行基準で比較可能な平成15年以降で2番目^(注)の下落率となった（前年同期比▲9.2%低下）。

（注）最大の下落率は平成19年1～3月期の▲9.7%低下

（3）生活関連業種の生産指数の推移

生活関連業種の生産指数は、マイナスで推移

生活関連業種の生産指数は、平成20年4～6月期及び7～9月期において、その他製品工業が前年同期を上回った他は、前年同期を下回り、総じてマイナスで推移している（図7）。



① 食料品・たばこ工業

食料品・たばこ工業の生産指数は96.4（前年比▲3.1%低下）。瓶詰・缶詰、肉製品などが上昇したが、清涼し好飲料、菓子パンなどが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成19年4～6月期から平成21年1～3月期まで、8期連続で前年同期を下回っている。

② 繊維工業

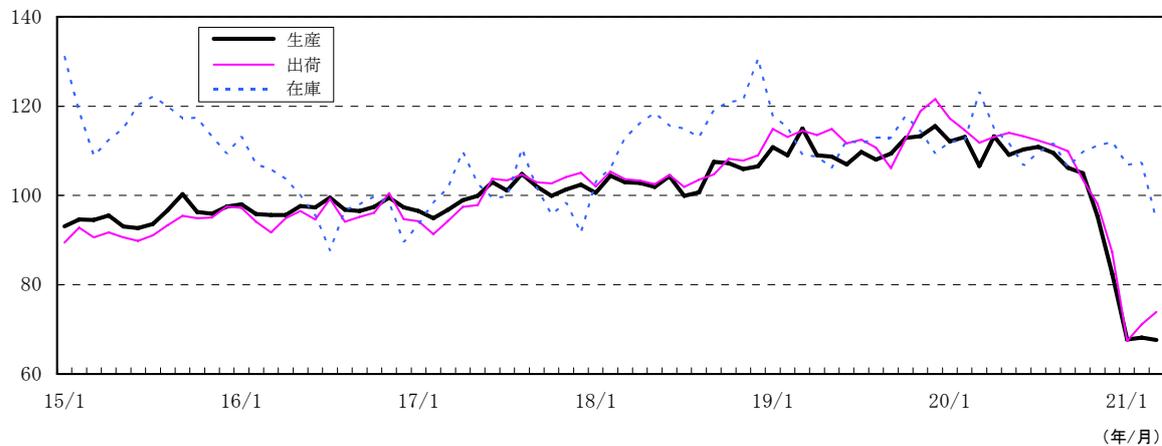
繊維工業は71.9（前年比▲18.0%低下）。綿糸、漁網などが上昇したが、化学合成繊維、綿織物などが低下に寄与した。四半期ごとにみると、平成16年7～9月期から平成21年1～3月期まで19期連続で前年同期を下回っている。

③ その他製品工業

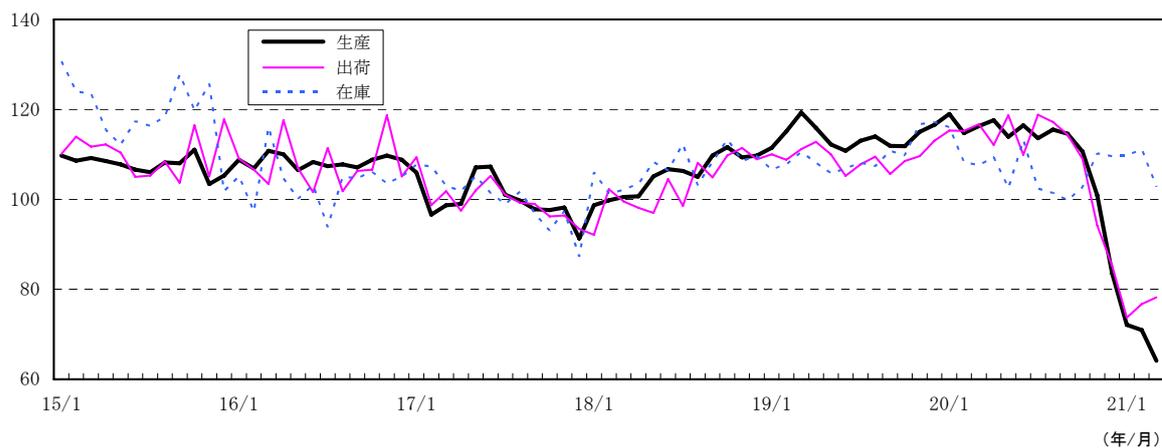
その他製品工業は90.8（前年比▲0.2%低下）。ボールペン、革靴などが上昇したが、手縫針、シャープペンシルなどが低下に寄与した。平成20年4～6月期には6期ぶりに前年同期を上回ったが、10～12月期には再び前年同期を下回った。

4 主要業種別季節調整済指数の推移（平成17年平均=100）

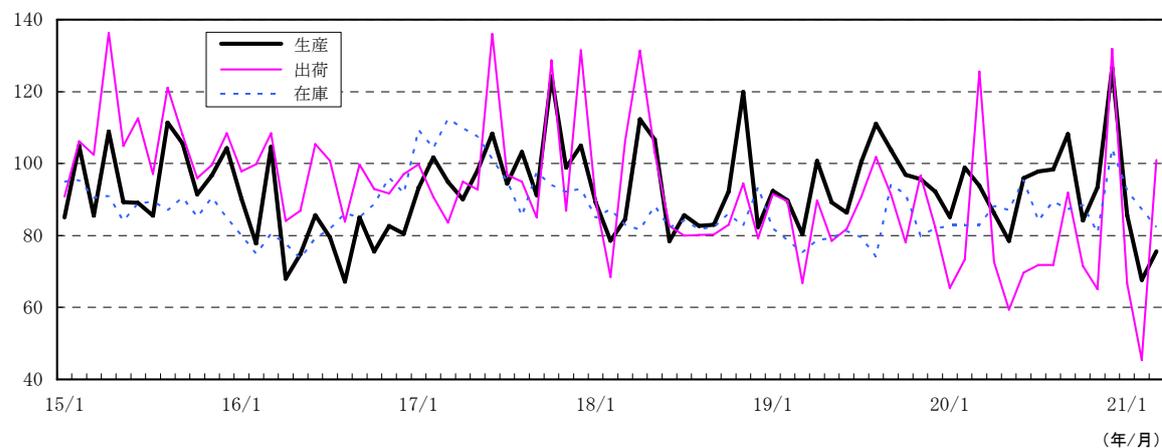
鋳工業（付加価値額ウェイト=10000.0）



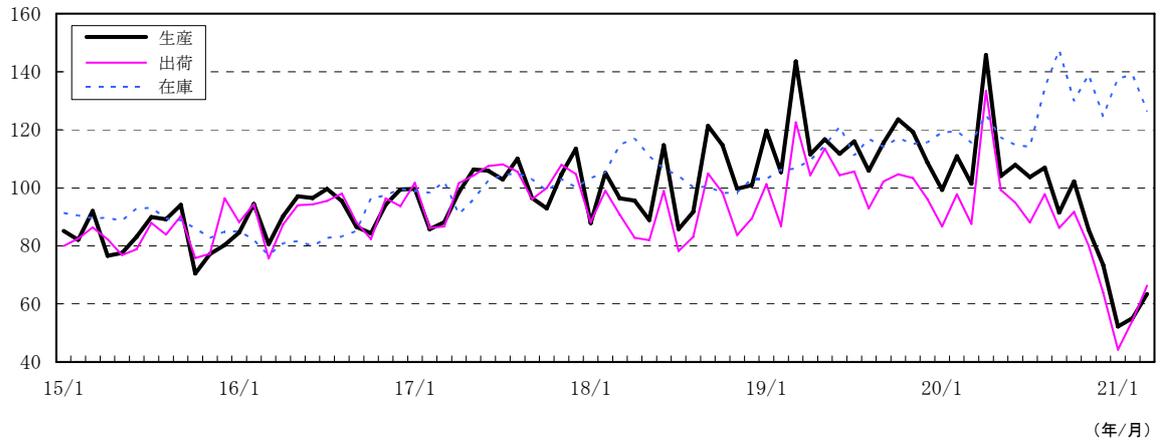
鉄鋼業（付加価値額ウェイト=2230.6）



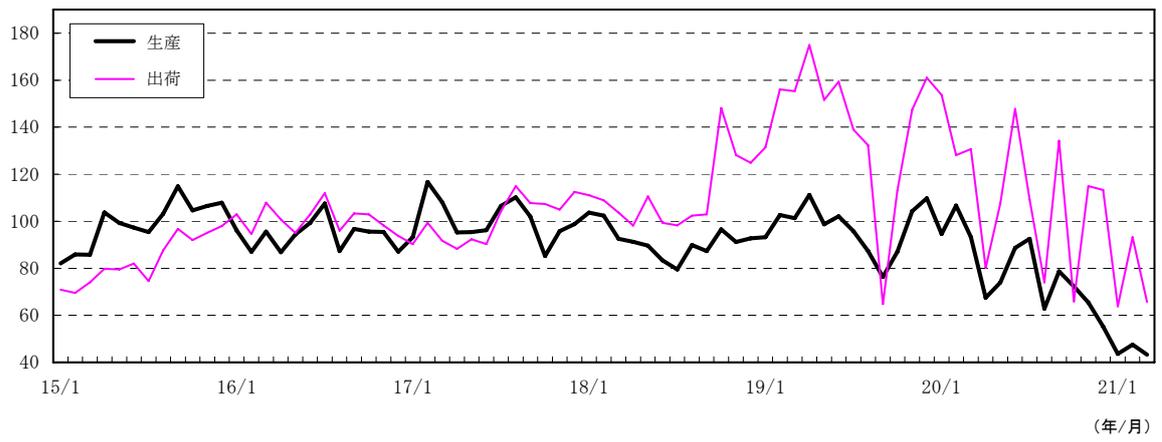
金属製品工業（付加価値額ウェイト=475.0）



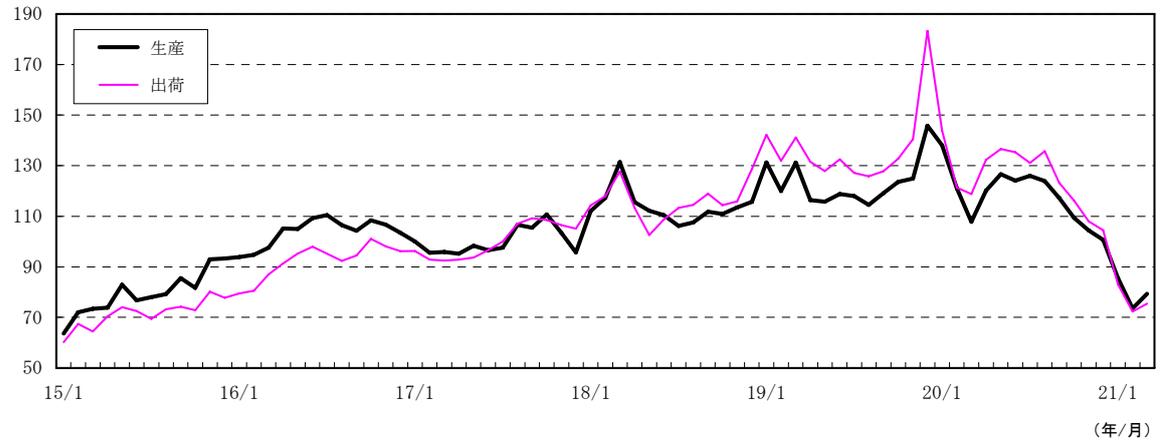
一般機械工業（付加価値額ウェイト＝1489.5）



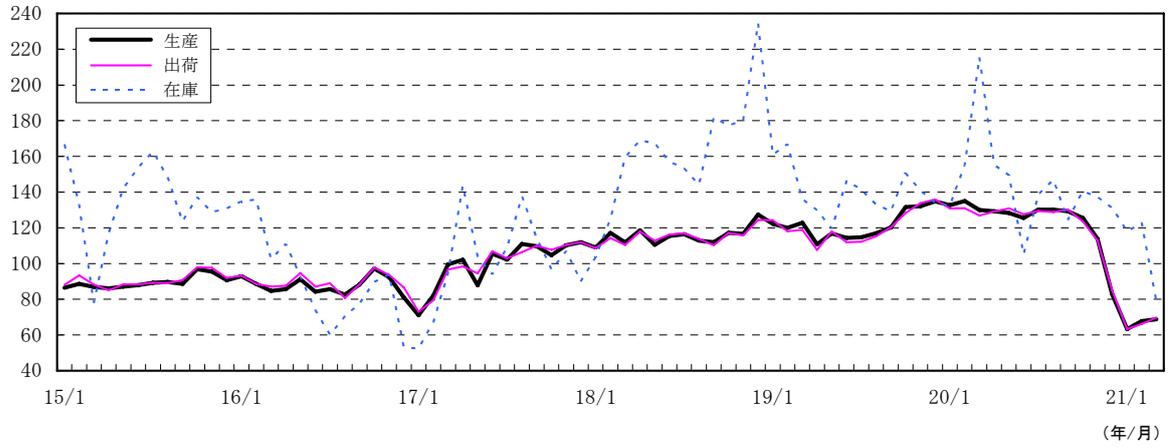
電気・情報通信機械工業（付加価値額ウェイト＝721.2）



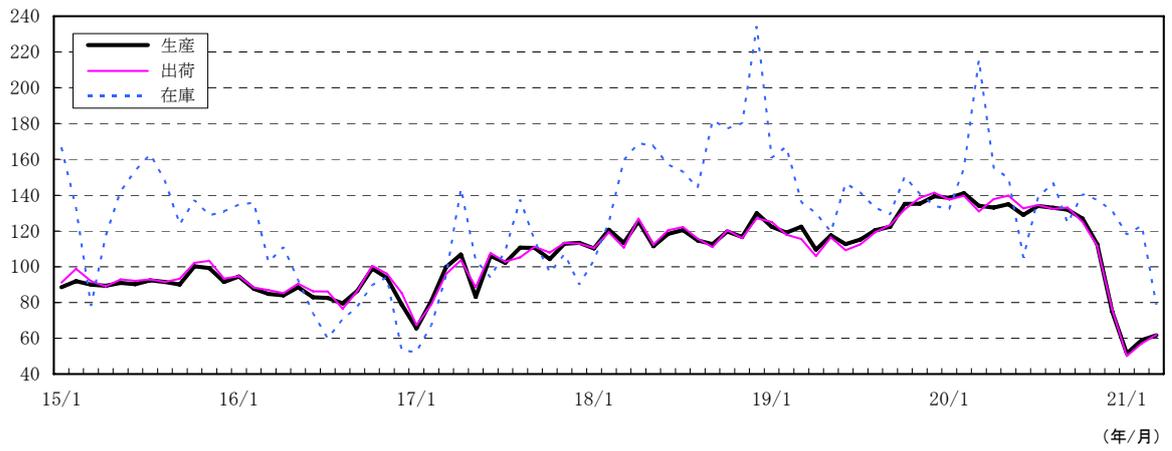
電子部品・デバイス工業（付加価値額ウェイト＝917.7）



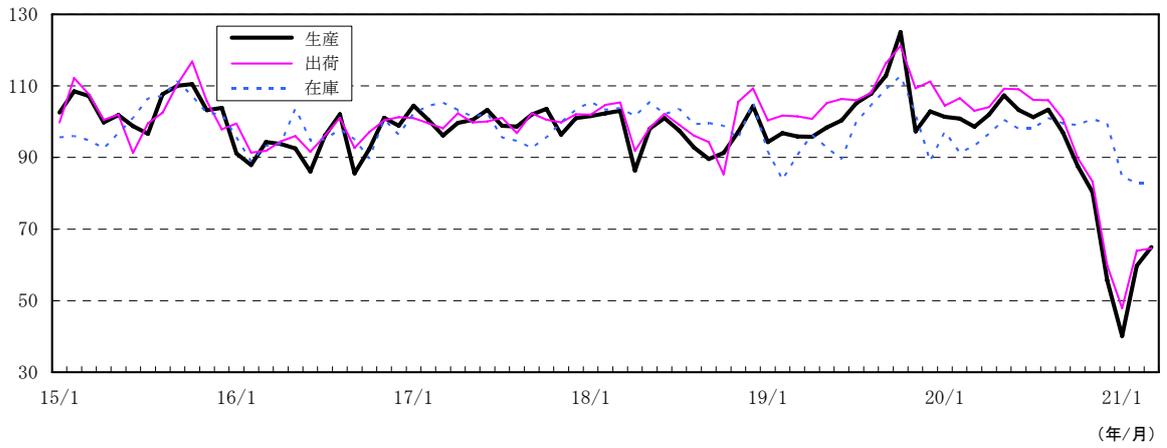
輸送機械工業（付加価値額ウエイト＝1485.3）



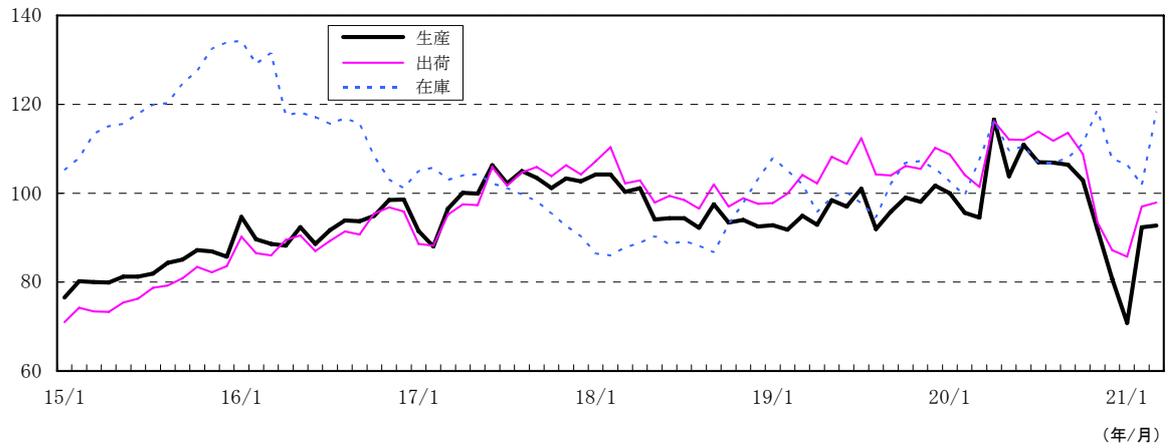
自動車部門（付加価値額ウエイト＝1231.2）



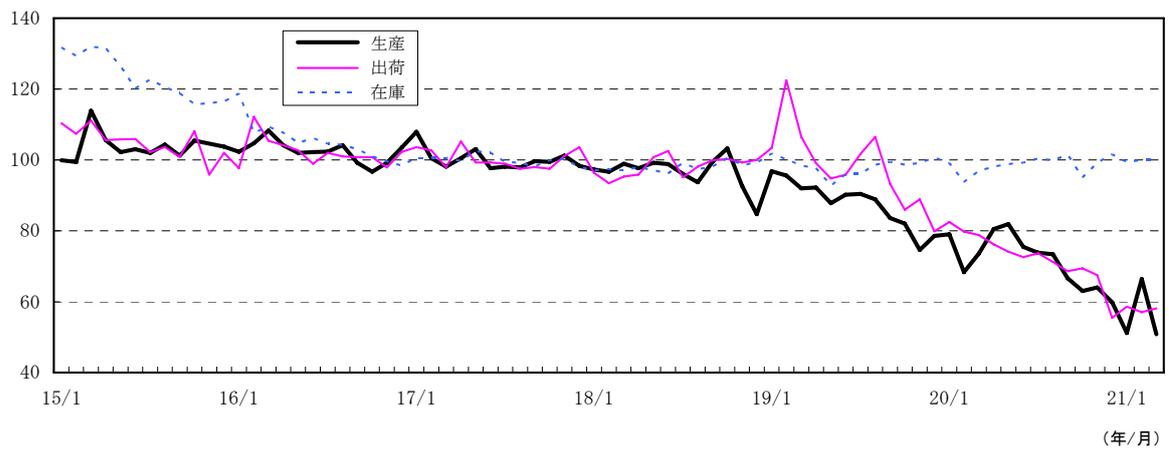
化学工業（付加価値額ウエイト＝408.5）



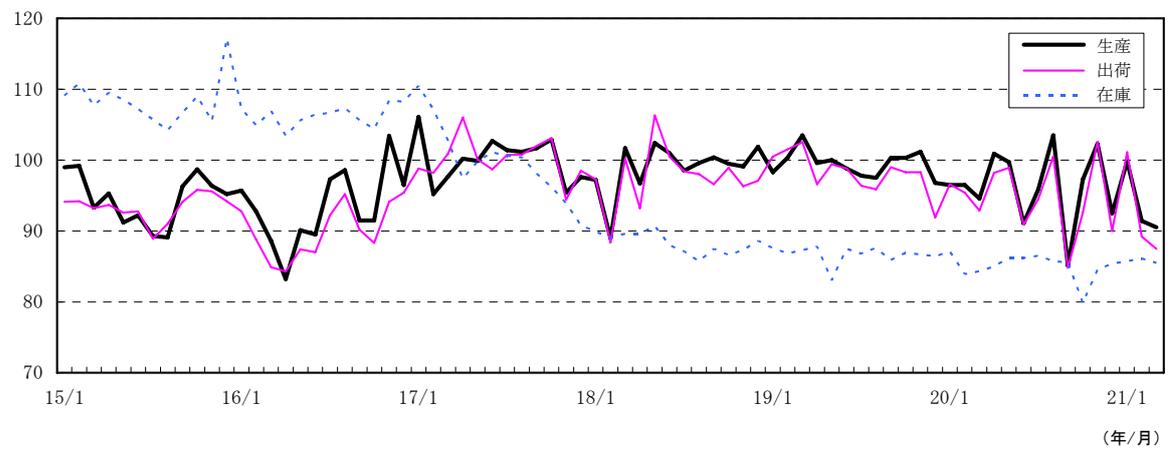
プラスチック製品工業（付加価値額ウェイト=474.8）



繊維工業（付加価値額ウェイト=220.4）

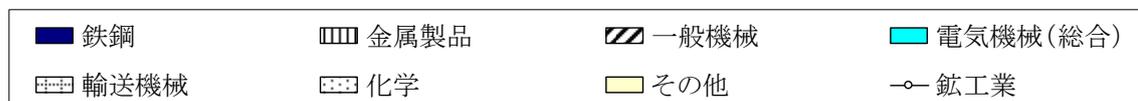
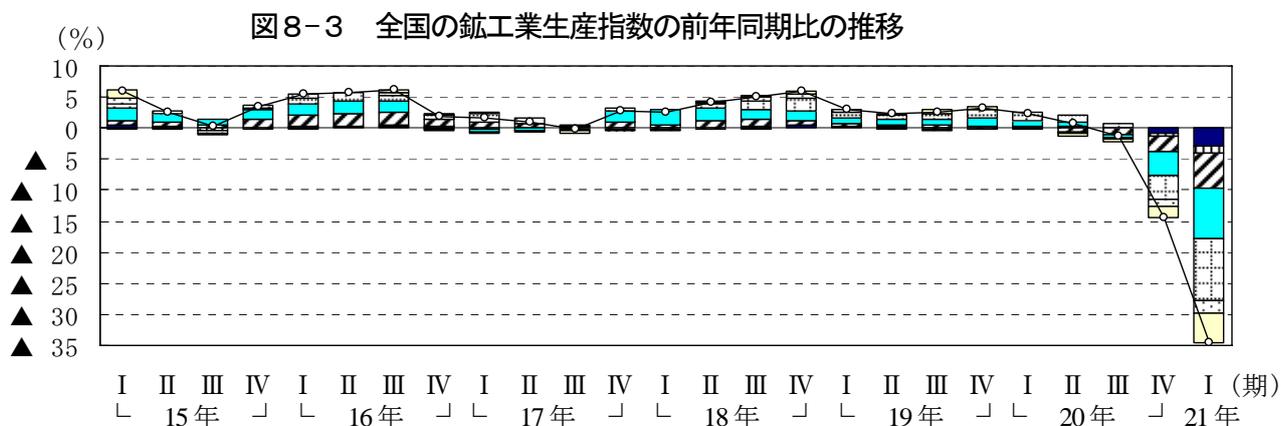
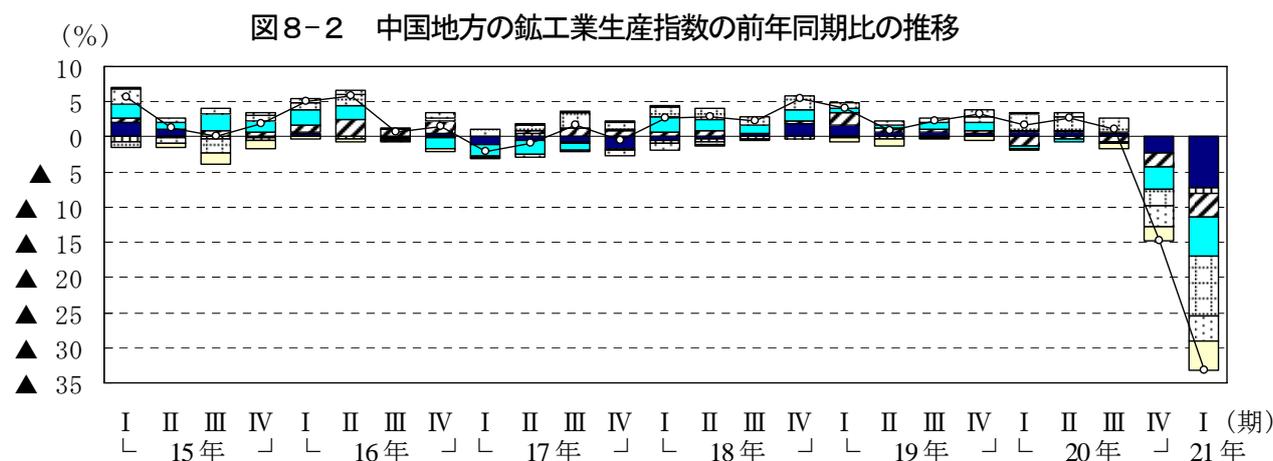
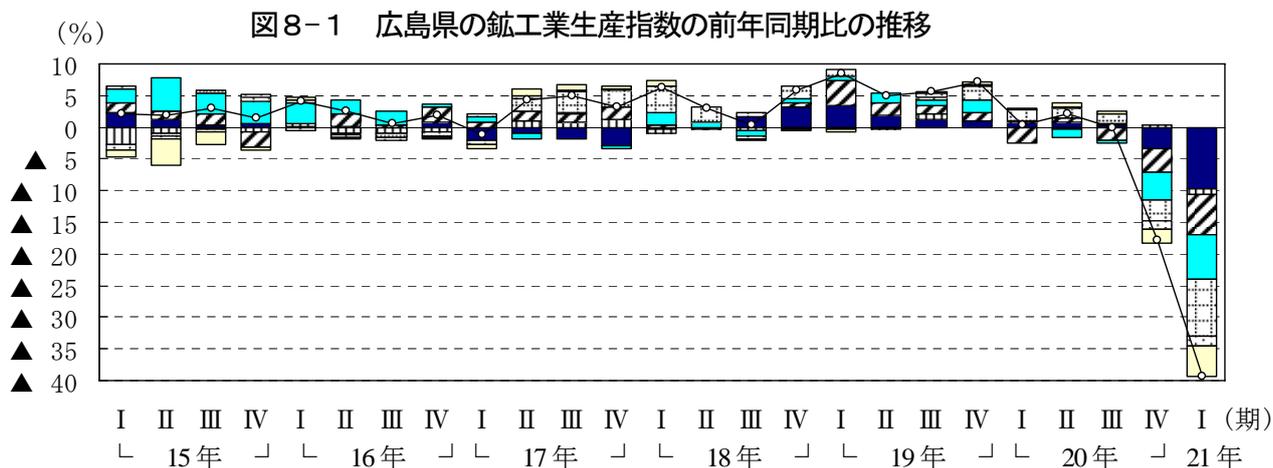


食料品・たばこ工業（付加価値額ウェイト=500.0）



5 広島県、中国地方及び全国における鋳工業生産指数の推移

平成20年を四半期ごとにみると(図8)、広島県は平成20年4~6月期までは前年同期比を上回っていたが、7~9月期以降は14四半期ぶりに前年同期比を下回った。中国地方は平成20年7~9月期まで、全国は平成20年4~6月期までは前年同期比を上回ったが、それ以降は前年同期を下回った。また、広島県、中国地方、全国ともに、10~12月期は前年同期比10%台の低下、さらに、平成21年1~3月期には、30%台の低下と歴史的な急低下となった。



出所: 中国地方…「中国地域鋳工業生産動向」(経済産業省中国経済産業局) 全国…「鋳工業生産・出荷・在庫指数」(経済産業省)

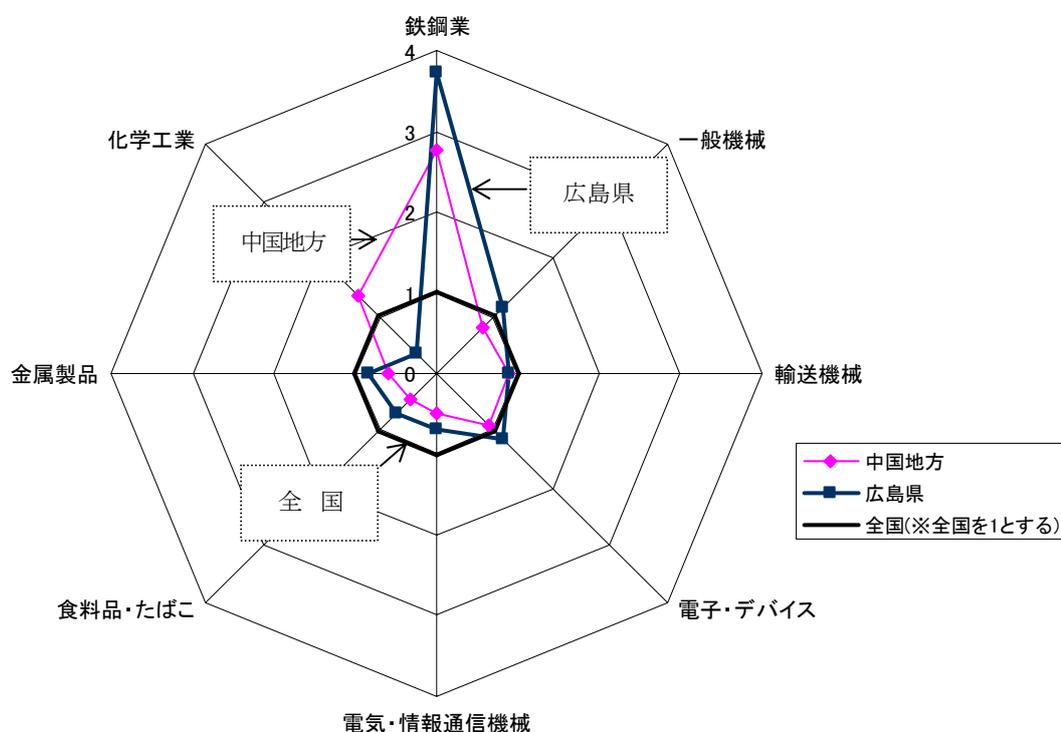
この鉱工業生産指数の急低下は、秋以降の世界的な不況によるものであり、その影響は、一般機械工業、輸送機械工業など幅広い業種に及んだ。

参考 鉱工業生産指数の付加価値額ウェイト（平成17年基準）について

特化係数^(注)を用いて、広島県の産業構造が、全国や中国地方と比較してどの程度の偏りがあるかみてみると（図9）、全国との比較では、鉄鋼業への特化の度合いが、極めて大きい一方、化学工業への特化の度合いが小さい。中国地方との比較では、化学工業を除いて各業種の特化の度合いは、相対的に全国に近くなっている。

図9 主要業種における広島県及び中国地方の特化係数

（各特化係数は、平成17年基準の付加価値額ウェイトにより算出）



(注) 特化係数 = 各地域の構成比 ÷ 全国の構成比

特化係数が1を超えると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に高いことを表し、特化係数が1を下回ると、その地域においてその業種の構成比が全国平均よりも相対的に低いことを表す。

別表 広島県、中国地方及び全国の鉱工業生産指数

(平成17年平均=100)

年・期・月	広島県				中国地方				全国			
	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比
平成 15年	/	/	95.2	2.1	/	/	97.4	2.2	/	/	94.1	3.0
16年			97.4	2.3			100.5	3.2			98.7	4.9
17年			100.0	2.7			100.0	▲ 0.5			100.0	1.3
18年			103.8	3.8			103.3	3.3			104.5	4.5
19年			110.6	6.6			106.0	2.6			107.4	2.8
20年			106.3	▲ 3.9			103.4	▲ 2.5			103.8	▲ 3.4
平成 15年 I 期			94.1	▲ 0.6			95.1	2.0			97.1	▲ 0.2
II 期	93.7	▲ 0.4	93.0	1.9	95.5	▲ 1.6	93.8	1.2	93.0	▲ 0.3	91.5	2.6
III 期	96.9	3.4	98.4	3.0	97.8	2.4	98.8	0.1	93.7	0.8	93.5	0.3
IV 期	96.6	▲ 0.3	94.4	1.5	99.4	1.6	99.7	1.9	96.5	3.0	97.7	3.4
16年 I 期	96.5	▲ 0.1	99.0	4.1	100.5	1.1	102.2	5.0	97.6	1.1	99.0	5.4
II 期	96.8	0.3	95.4	2.6	101.7	1.2	99.3	5.9	99.0	1.4	96.8	5.8
III 期	97.6	0.8	98.9	0.5	98.7	▲ 2.9	99.4	0.6	99.7	0.7	99.3	6.2
IV 期	98.1	0.5	96.1	1.8	100.8	2.1	101.1	1.4	98.2	▲ 1.5	99.6	1.9
17年 I 期	96.1	▲ 2.0	97.8	▲ 1.2	99.4	▲ 1.4	100.1	▲ 2.1	99.8	1.6	100.7	1.7
II 期	100.6	4.7	99.4	4.2	100.6	1.2	98.3	▲ 1.0	100.1	0.3	97.8	1.0
III 期	102.6	2.0	103.7	4.9	100.6	0.0	101.0	1.6	99.7	▲ 0.4	99.1	▲ 0.2
IV 期	101.2	▲ 1.4	99.1	3.1	100.4	▲ 0.2	100.6	▲ 0.5	100.9	1.2	102.4	2.8
18年 I 期	102.6	1.4	104.0	6.3	101.5	1.1	102.7	2.6	102.1	1.2	103.3	2.6
II 期	103.0	0.4	102.3	2.9	103.1	1.6	101.1	2.8	103.9	1.8	101.9	4.2
III 期	102.7	▲ 0.3	104.0	0.3	102.9	▲ 0.2	103.3	2.3	105.0	1.1	104.2	5.1
IV 期	106.5	3.7	104.9	5.9	105.2	2.2	106.0	5.4	106.3	1.2	108.5	6.0
19年 I 期	111.6	4.8	112.7	8.4	106.0	0.8	106.9	4.1	105.8	▲ 0.5	106.5	3.1
II 期	108.2	▲ 3.0	107.4	5.0	104.1	▲ 1.8	102.0	0.9	106.4	0.6	104.2	2.3
III 期	109.0	0.7	109.8	5.6	105.8	1.6	105.6	2.2	108.2	1.7	106.9	2.6
IV 期	113.9	4.5	112.4	7.1	108.2	2.3	109.4	3.2	109.2	0.9	112.1	3.3
20年 I 期	110.6	▲ 2.9	113.2	0.4	107.4	▲ 0.7	108.6	1.6	109.5	0.3	109.1	2.4
II 期	110.9	0.3	109.8	2.2	107.3	▲ 0.1	104.8	2.7	108.1	▲ 1.3	105.0	0.8
III 期	108.9	▲ 1.8	109.7	▲ 0.1	105.3	▲ 1.9	106.8	1.1	104.6	▲ 3.2	105.4	▲ 1.4
IV 期	94.3	▲ 13.4	92.3	▲ 17.9	92.9	▲ 11.8	93.3	▲ 14.7	92.8	▲ 11.3	95.8	▲ 14.5
21年 I 期	67.8	▲ 28.1	68.7	▲ 39.3	72.8	▲ 21.6	72.4	▲ 33.3	72.3	▲ 22.1	71.4	▲ 34.6
平成 15年 1月	91.4	1.3	87.4	1.2	90.8	0.0	92.0	6.1	87.3	▲ 0.7	87.2	8.3
2月	90.0	▲ 1.5	90.4	3.6	91.7	1.0	92.1	4.9	88.7	1.6	91.1	5.6
3月	89.8	▲ 0.2	107.5	1.6	91.2	▲ 0.5	107.7	5.7	89.4	0.8	103.4	4.4
4月	94.2	4.9	92.8	1.3	94.2	3.3	93.6	1.4	88.9	▲ 0.6	90.6	3.7
5月	95.0	0.8	92.0	0.0	95.1	1.0	93.9	2.8	92.7	4.3	89.4	1.2
6月	92.8	▲ 2.3	94.2	4.4	97.1	2.1	94.0	▲ 0.5	91.7	▲ 1.1	94.5	2.8
7月	96.4	3.9	97.3	▲ 5.4	97.6	0.5	100.3	▲ 1.5	92.3	0.7	96.8	0.1
8月	95.9	▲ 0.5	93.6	2.5	98.2	0.6	92.5	▲ 3.0	92.6	0.3	84.3	▲ 2.2
9月	89.8	▲ 6.4	104.2	12.6	96.7	▲ 1.5	103.5	4.8	93.3	0.8	99.4	2.8
10月	92.8	3.3	93.5	3.2	96.7	0.0	100.3	4.0	93.4	0.1	99.4	3.2
11月	96.7	4.2	92.9	▲ 2.5	99.2	2.6	97.3	▲ 1.8	93.0	▲ 0.4	96.2	1.8
12月	94.7	▲ 2.1	96.9	4.2	96.1	▲ 3.1	101.6	3.8	92.9	▲ 0.1	97.4	5.2
16年 1月	98.0	0.5	91.9	5.1	100.7	1.5	95.9	4.2	97.9	1.6	90.5	3.8
2月	95.8	▲ 2.2	94.1	4.1	100.3	▲ 0.4	98.7	7.2	97.7	▲ 0.2	95.6	4.9
3月	95.6	▲ 0.2	110.9	3.2	100.4	0.1	111.9	3.9	97.2	▲ 0.5	110.8	7.2
4月	95.6	0.0	92.9	0.1	101.0	0.6	99.3	6.1	98.9	1.7	97.1	7.2
5月	97.6	2.1	93.3	1.4	102.4	1.4	96.6	2.9	98.9	0.0	91.1	1.9
6月	97.3	▲ 0.3	100.1	6.3	101.8	▲ 0.6	102.1	8.6	99.2	0.3	102.1	8.0
7月	99.5	2.3	102.6	5.4	100.7	▲ 1.1	103.4	3.1	100.4	1.2	102.3	5.7
8月	96.8	▲ 2.7	93.9	0.3	99.8	▲ 0.9	96.3	4.1	99.3	▲ 1.1	91.7	8.8
9月	96.5	▲ 0.3	100.3	▲ 3.7	95.7	▲ 4.1	98.6	▲ 4.7	99.5	0.2	103.9	4.5
10月	97.4	0.9	93.9	0.4	98.8	3.2	97.4	▲ 2.9	98.0	▲ 1.5	98.3	▲ 1.1

(平成17年平均=100)

年 月	広 島 県				中 国 地 方				全 国			
	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比	季節調整 済指数	前 (期) 月 比	原指数	前年(同 月期) 比
平成 16年11月	99.5	2.2	97.3	4.7	101.7	2.9	101.4	4.2	98.9	0.9	101.4	5.4
12月	97.3	▲2.2	97.0	0.1	101.8	0.1	104.6	3.0	97.6	▲1.3	99.1	1.7
17年 1月	96.5	▲0.8	91.5	▲0.4	100.2	▲1.6	96.1	0.2	99.8	2.3	92.3	2.0
2月	94.9	▲1.7	90.1	▲4.3	98.7	▲1.5	94.9	▲3.9	99.7	▲0.1	97.5	2.0
3月	96.8	2.0	111.8	0.8	99.3	0.6	109.4	▲2.2	100.0	0.3	112.4	1.4
4月	98.9	2.2	95.4	2.7	100.7	1.4	98.1	▲1.2	100.5	0.5	97.5	0.4
5月	99.9	1.0	95.9	2.8	99.7	▲1.0	94.6	▲2.1	99.8	▲0.7	92.8	1.9
6月	103.0	3.1	106.8	6.7	101.4	1.7	102.1	0.0	100.1	0.3	103.1	1.0
7月	101.1	▲1.8	103.6	1.0	98.8	▲2.6	100.4	▲2.9	99.3	▲0.8	99.7	▲2.5
8月	104.8	3.7	101.6	8.2	102.3	3.5	99.2	3.0	99.4	0.1	93.0	1.4
9月	102.0	▲2.7	106.0	5.7	100.7	▲1.6	103.3	4.8	100.3	0.9	104.6	0.7
10月	99.9	▲2.1	96.7	3.0	100.6	▲0.1	99.2	1.8	99.8	▲0.5	100.2	1.9
11月	101.3	1.4	99.0	1.7	99.5	▲1.1	99.2	▲2.2	101.4	1.6	104.3	2.9
12月	102.4	1.1	101.7	4.8	101.0	1.5	103.5	▲1.1	101.6	0.2	102.6	3.5
18年 1月	100.6	▲1.8	94.9	3.7	100.0	▲1.0	95.8	▲0.3	102.0	0.4	94.3	2.2
2月	104.4	3.8	100.3	11.3	102.4	2.4	99.7	5.1	101.9	▲0.1	100.7	3.3
3月	102.9	▲1.4	116.9	4.6	102.1	▲0.3	112.7	3.0	102.5	0.6	115.0	2.3
4月	102.8	▲0.1	100.0	4.8	102.9	0.8	100.7	2.7	104.5	2.0	101.4	4.0
5月	101.9	▲0.9	98.1	2.3	102.3	▲0.6	97.5	3.1	103.0	▲1.4	96.7	4.2
6月	104.3	2.4	108.7	1.8	104.2	1.9	105.1	2.9	104.3	1.3	107.5	4.3
7月	99.9	▲4.2	102.2	▲1.4	103.3	▲0.9	104.8	4.4	104.7	0.4	104.8	5.1
8月	100.7	0.8	97.2	▲4.3	101.4	▲1.8	98.2	▲1.0	105.1	0.4	98.4	5.8
9月	107.5	6.8	112.6	6.2	104.0	2.6	106.9	3.5	105.1	0.0	109.4	4.6
10月	107.2	▲0.3	104.4	8.0	105.4	1.3	104.7	5.5	105.9	0.8	107.7	7.5
11月	105.9	▲1.2	103.5	4.5	105.3	▲0.1	104.9	5.7	106.3	0.4	109.6	5.1
12月	106.5	0.6	106.9	5.1	105.0	▲0.3	108.4	4.7	106.6	0.3	108.1	5.4
19年 1月	110.8	4.0	105.1	10.7	106.2	1.1	102.6	7.1	105.4	▲1.1	98.5	4.5
2月	109.0	▲1.6	103.2	2.9	105.0	▲1.1	101.1	1.4	106.0	0.6	103.6	2.9
3月	115.0	5.5	129.9	11.1	106.8	1.7	117.1	3.9	106.0	0.0	117.3	2.0
4月	109.0	▲5.2	105.0	5.0	103.7	▲2.9	101.0	0.3	105.6	▲0.4	102.4	1.0
5月	108.7	▲0.3	106.1	8.2	104.4	0.7	100.5	3.1	106.8	1.1	101.3	4.8
6月	106.9	▲1.7	111.2	2.3	104.3	▲0.1	104.4	▲0.7	106.9	0.1	108.9	1.3
7月	109.7	2.6	112.7	10.3	105.5	1.2	107.7	2.8	107.0	0.1	108.1	3.1
8月	108.0	▲1.5	104.1	7.1	105.3	▲0.2	101.9	3.8	109.7	2.5	102.9	4.6
9月	109.4	1.3	112.6	0.0	106.5	1.1	107.1	0.2	107.9	▲1.6	109.6	0.2
10月	112.9	3.2	110.6	5.9	106.9	0.4	107.0	2.2	110.0	1.9	113.4	5.3
11月	113.3	0.4	112.1	8.3	108.4	1.4	109.5	4.4	108.4	▲1.5	113.1	3.2
12月	115.5	1.9	114.4	7.0	109.4	0.9	111.8	3.1	109.1	0.6	109.7	1.5
20年 1月	112.1	▲2.9	106.9	1.7	108.6	▲0.7	103.9	1.3	109.6	0.5	101.6	3.1
2月	113.1	0.9	112.7	9.2	108.8	0.2	108.7	7.5	110.1	0.5	109.1	5.3
3月	106.6	▲5.7	120.1	▲7.5	104.9	▲3.6	113.2	▲3.3	108.7	▲1.3	116.5	▲0.7
4月	113.2	6.2	110.9	5.6	107.7	2.7	104.4	3.4	108.0	▲0.6	104.2	1.8
5月	109.1	▲3.6	104.7	▲1.3	107.2	▲0.5	102.5	2.0	109.3	1.2	102.2	0.9
6月	110.3	1.1	113.9	2.4	106.9	▲0.3	107.5	3.0	107.1	▲2.0	108.7	▲0.2
7月	110.9	0.5	114.1	1.2	106.1	▲0.7	110.4	2.5	106.8	▲0.3	110.6	2.3
8月	109.5	▲1.3	103.4	▲0.7	105.2	▲0.8	101.9	0.0	103.5	▲3.1	95.5	▲7.2
9月	106.2	▲3.0	111.5	▲1.0	104.5	▲0.7	108.0	0.8	103.6	0.1	110.0	0.4
10月	105.0	▲1.1	104.3	▲5.7	101.4	▲3.0	102.6	▲4.1	100.1	▲3.4	105.9	▲6.6
11月	95.3	▲9.2	90.4	▲19.4	92.9	▲8.4	91.2	▲16.7	93.1	▲7.0	94.4	▲16.5
12月	82.5	▲13.4	82.1	▲28.2	84.3	▲9.3	86.0	▲23.1	85.3	▲8.4	87.0	▲20.7
21年 1月	67.7	▲17.9	64.0	▲40.1	74.3	▲11.9	70.5	▲32.1	76.7	▲10.1	70.2	▲30.9
2月	68.1	0.6	65.3	▲42.1	73.7	▲0.8	69.6	▲36.0	69.5	▲9.4	67.2	▲38.4
3月	67.6	▲0.7	76.8	▲36.1	70.4	▲4.5	77.2	▲31.8	70.6	1.6	76.7	▲34.2

出所：中国地方 … 「中国地域鉱工業生産動向」（経済産業省中国経済産業局）
全 国 … 「鉱工業生産・出荷・在庫指数」（経済産業省）